



2019 年夏，スイス行

(株) エフ設計コンサルタント

天野 大 (AMANO HIROSHI)

建設部門，上下水道部門，環境部門

総合技術監理部門

1. 約束

学生時代の夏休み，ヨーロッパを一人旅した。特に，スイス・アルプスの風景が心に残る。モルゲンローテに映えるアイガー北壁，クライネシャイデック (標高 2061m) で見つけた小さな池には，オタマジャクシがいたこと，その地からグリンデルワルトまでトレッキングしたことなど。



結婚する時に，「スイスに連れて行く」と妻に 写真-1 定宿となる Jungfrau Lodge からの眺め
なるひとに約束する。その光景を，彼女とともに再体験したかった。

残念ながら，諸事情で，結婚式と旅は年末となる。そのため，新婚旅行は，夏季のアルプスとフィヨルドが楽しめる南半球にした。スイス行は，お預けとなる。

その約束を果たす準備が整ったのは，36 年後の 2019 年春だ。

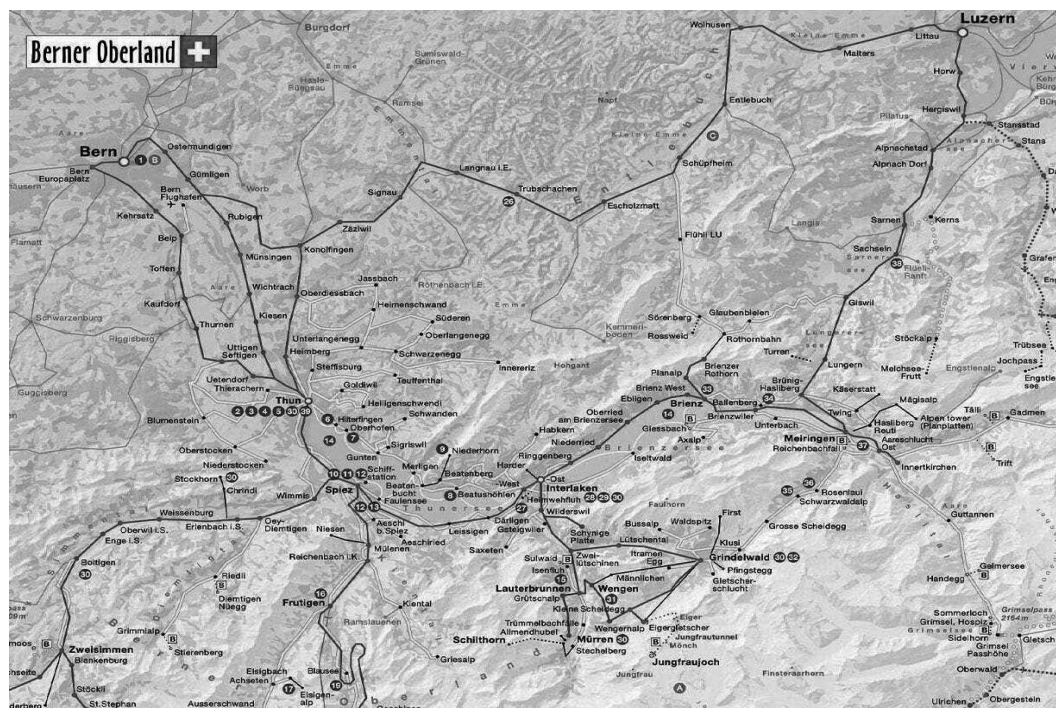


図-1 今回のイン旅先：Berner Oberland (図の中央下側)

2. スケジュールと準備

今回は「山歩き」をメインにしたいと思った。入国後は、即アルプスに向かい、グリーンデルワルトを拠点として11日間を堪能する計画だ。

旅行社に勤める友人に、次を頼む。

- ① 行き帰りの航空便：友人の配慮もあってか、フィンランド航空になる。
- ② 入国時の都市での宿泊先：チューリッヒのアメリカンホテルになる。
- ③ スイス国内の交通機関に自由に乗れるパス
- ④ グリンデルワルトでの長期宿泊先
- ⑤ インターラーケンで、夏季限定で行われる野外劇「ウィリアム・テル」の鑑賞券：旅行社扱いでは手数料と時間がかかるため、自分で取るようにとの助言をいただく。
- ⑥ スイス最終日は、「ハイジの村」行き（案）も出る。どうするかは、未定のまま、自分で宿泊所を取ることにする。

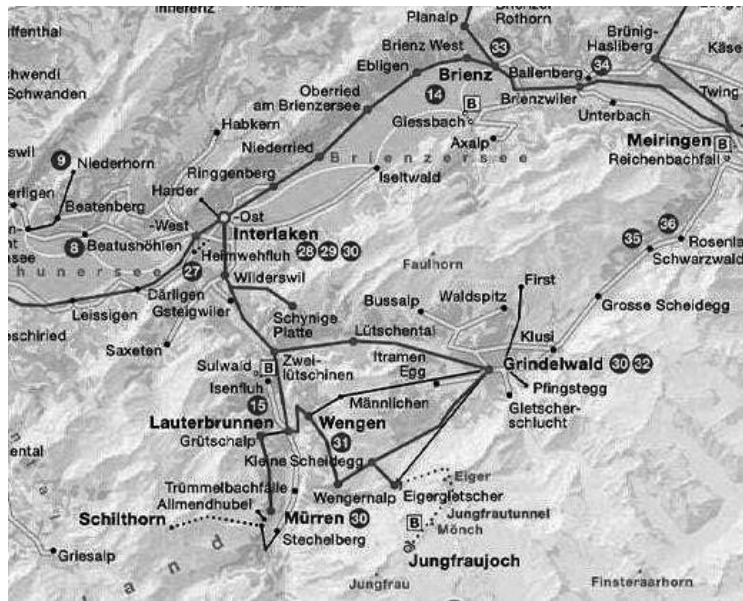


図-2 「図-1」の拡大版 拠点 Grindelwald がほぼ中央

また、妻からは、「11 日間も山にいて、何をするの？」（計画書を出しなさい）との命が下る。そんなこんなで、一晩で書き上げたスケジュール。（表-1）

参考にしたのは、私の旅の友「地球の歩き方 スイス 2018～2019 年版」（ダイヤモンド社、ダイヤモンド・ビッグ社）と「わがまま歩き スイス」（実業之日本社）だ。（写真-2, 3）



写真-2 地球の歩き方

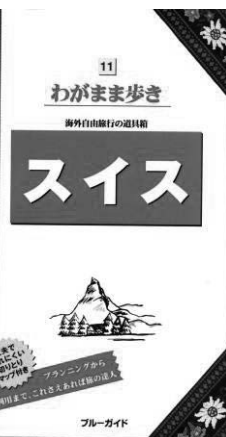


写真-3 わがまま歩き

特に、今回の目玉は、野外劇だ。インターラーケンまで下って、湖を観光遊覧したあと、夕刻から「ウィリアム・テル劇」を鑑賞する。自分でチケットを取ると決めたため、学生時代の独語辞書を片手に、最寄りのサイトを訪問する。何と、日本に居ながらにして、スイスの劇場の座席指定まで取れることに感動する。

今の時代、当たり前のことなんだが。

(1) 事前の知識

スイスとは・・・

① 武装中立国

- ・兵役義務
- ・各戸に核シェルター

② 直接民主制

③ 時計など精密機器産業が発達

④ 世界の金融センター

・マネーロンダリング等

⑤ 「自殺ほう助」

を法律で承認

ただし、そのハードルは高い。

⑥ 観光立国

⑦ 近自然工法*

スイスの自然に見合った工法

⑧ 4 公用語

- ・ドイツ語
- ・フランス語
- ・イタリア語
- ・ロマンシュ語

ちなみに、今回の旅先はドイツ語圏だ。

表ー1 行程（その1）

【行程】スイスの旅

2019年7月22日（月）～8月5日（月）

7/22（月） 高速鳴門 5:10 →（高速バス）→ 7:30 第1ターミナル（4F・Cカウンター）関西国際空港 10:45 →（フィンランド航空 AY0078）→ 14:40 ヘルシンキ空港 16:30 →（フィンランド航空 AY1513）→ 18:20 チューリッヒ空港 →（バス）→ ホテル（泊）

①送迎無料：到着階出て右手奥にホテルバス乗り場があり 30 分おき（15 分、45 分）に 13 人乗りのミニバスが運行している。

②ブッフェ朝食込み：朝 4 時からレストランが開いていて、アメリカ系のホテルなので温かいお料理もある。クロワッサンは焼き立てでマリOTTホテルのより美味しかった！日中はエレベーター前にフルーツウォーターやオレンジが無料で置いてある。

③ホテル周りのスーパー・レストラン：ディスカウントスーパーとスーパー：夜 8 時までやっていて空港のコープよりずっと安い。（ただし日曜は休み）マックとサブウェイもある。

④駅近：徒歩 5 分で最寄り駅。チューリッヒダウンタウンまで電車で 15 分（6.8F＝約 777 円）

⑤ロビー：無料 PC、氷、貸本がある。有料自販機もある。

⑥部屋：スタンダードに清潔快適、湯沸かしアイロン等有り（冷蔵庫は無い）

⑦アメニティ：ボディークリームとシャンプーが一緒のリキッドサーバーがシャワーブースにある。トランジットだけでなくここに宿泊してダウンタウンに行っても十分満足できると思う。

チューリッヒ市 ホテル Holiday Inn Express Zurich Airport

以上、友人のコメント。

7/23（火） チューリッヒ（ホテル）→チューリッヒ駅→（インターシティ）→ルツェルン（屋根付き橋見物）→（インターシティ）→インターラーケン・オスト（乗換）→（登山電車）→グリンデルワルト→（徒歩）→ホテル（泊～8月2日チェックアウト） グリンデルワルト ホテル Jungfrau Lodge Swiss Mountain Hotel

7/24（水） ホテル→（徒歩）→グリンデルワルト駅→（登山電車）→クライネ・シャイデック駅→（登山電車）→ユングフラウ・ヨッホ駅（観光）→（登山電車）→クライネ・シャイデック駅→（徒歩）→グリンデルワルト ホテル（泊）

7/25（木） ホテル→（徒歩）→グルント駅 9:00 →（バス）→メンリッヒェン展望台（散策）→（ロープウェイ）→ヴェンゲン駅→（登山電車）→グリンデルワルト駅→（徒歩）→ホテル（泊）

7/26（金） ホテル→（徒歩）→グリンデルワルト駅→（登山電車）→ラウターブルンネン駅→（登山電車）→ミューレン駅→（ロープウェイ・登山電車）→シルトホルン展望台（見学）→（ロープウェイ）→ミューレン駅→（ケーブルカー）→アルメントフーベル展望台（花道：見学）→（徒歩）→ミューレン駅→（登山電車）→グリンデルワルト駅→（徒歩）→ホテル（泊）

* 近自然 (Naturnaher) 工法：生態系や景観 (Landschaft) に寄り添った工法

スイス、ドイツ、オーストリアで確立された。河川では、「近自然河川工法 (Naturnaher Wasserbau)」。一方、日本 (国土交通省) では「多自然型川づくり」、後に「多自然川づくり」と呼ぶ。平成 9 年に河川法の第 3 番目の目的・目標として「河川環境」を入れた先人 (河川技術官僚) の努力の成果ともいえる。

提唱者であるクリスチャン・ゲルディ氏が来徳時に、地方発の近自然河川工法実践現地研修に随行する。また、日本における、伝承者であり「河川の外科医」の異名をもつ福留脩文さんに、県庁時代 (那賀庁舎)、一級河川谷内川の河川改修で古式土佐積みによる護岸整備をお願いする。

個人的には、環境ボランティア団体「正法寺川を考える会」**の研修旅行で、高知を訪問し、研究室的執務空間で、子供たちを含む会員が福留さんから川での実践例と河川浄化への応用について講義を受ける。

表ー2 行程（その2）

7/27 (土)	ホテル→(徒歩)→グリンデルワルト駅→(登山電車)→インターラーケン・オスト駅→船乗り場→(遊覧船)→船乗り場→ウィリアム・テル野外劇場(観劇:20:00~22:30)→(徒歩)→インターラーケン・オスト駅 23:05/00:10→(登山電車)→23:36/00:41 グリンデルワルト駅→(徒歩)→ホテル(泊)
7/28 (日)	ホテル→(徒歩)→グルント駅 9:00→(バス)→メンリッヒェン展望台→(徒歩)→クライネ・シャイデック駅→(登山電車)→グリンデルワルト駅→(徒歩)→ホテル(泊)
7/29 (月)	ホテル→(徒歩)→ゴンドラリフト乗り場 8:00→(ゴンドラリフト)→フィルスツ展望台→(散策)→バッハアルプ湖→(散策)→フィルスツ展望台→フィルスツ・フリエガー→(ケーブルチェア)→シュレックフェルト→(ゴンドラリフト)→グリンデルワルト→(徒歩)→ホテル(泊)
7/30 (火)	ホテル→(徒歩)→ゴンドラリフト乗り場 8:00→(ゴンドラリフト)→フィルスツ展望台→(散策)→ or ホテル→(徒歩)→バス・ターミナル→(バス)→グローセ・シャイデック展望台→(散策)→フィルスツ展望台→(ゴンドラリフト)→グリンデルワルト→(徒歩)→ホテル(泊)
7/31 (水)	ホテル→(徒歩)→グリンデルワルト駅→(登山電車)→ヴィルダースヴィル駅→(登山電車)→シーニゲ・プラッテ展望台(散策・高山植物園)→(登山電車)→ヴィルダースヴィル駅→(登山電車)→グリンデルワルト駅→(徒歩)→ホテル(泊)
8/1 (木)	ホテル→(徒歩)→ロープウェイ乗り場 8:00→(ロープウェイ)→フィッシュテック展望台(散策)→(ロープウェイ)→ホテル(休憩) ホテル→村通り(スイス建国祭見物) 20:00~22:00→ホテル(泊)
8/2 (金)	ホテル→(徒歩)→グリンデルワルト駅→(登山電車)→インターラーケン・オスト駅→チューリッヒ駅→ホテル(泊 ~8月4日チェックアウト) チューリッヒ市 ホテル Holiday Inn Express Zurich Airport
8/3 (土)	ホテル→チューリッヒ市内(観光・買い物)→ホテル(泊)
8/4 (日)	ホテル→(バス)→チューリッヒ空港 10:50→(フィンランド航空 AY1512)→14:35 ヘルシンキ空港 17:20→(フィンランド航空 AY0077)→
8/5 (月)	→(フィンランド航空 AY0077)→8:55 関西国際空港→(高速バス)→高速鳴門→自宅

(2) 変更・留意点

① 行程：ほぼ計画どおり

ただし、天候(雨)により、実施行程を入れ替えた日がある。

② 月日：日本との時差が8時間(サマータイム実施中は7時間)

月日の表記を日本時で記載しているため、補正して見ていただく必要がある。

③ シェンゲン協定：

ヨーロッパの国家間で国境検査なしで国境を越えることを許可する協定。スイスも、協定加盟国である。そのため、今回はヘルシンキ空港での入国審査で、スイス入国となる。チューリッヒ空港に着くと、そのままチューリッヒの街中に出ることができる。

④ スイスの建国記念日：8月1日である。この日に、スイス国内に居たかった。



写真-4 フィン・エアーのタグ



写真-5 広大なシベリア平原



写真-6 機内食 KARHU ビールとともに

**** 正法寺川を考える会**：藍住町～徳島市応神町を流れる一級河川正法寺川の川づくり(多自然型・水質浄化・住民参加)の一環として、平成9年(1997年)3月18日に立ち上がった環境ボランティア団体。奇しくも「河川法」改正年と同じ。筆者は、この会の立ち上げ準備から関わり、業務を離れてからは、月1回の「川そうじ」や川を教材にした地元小学校の環境学習等に参加している。

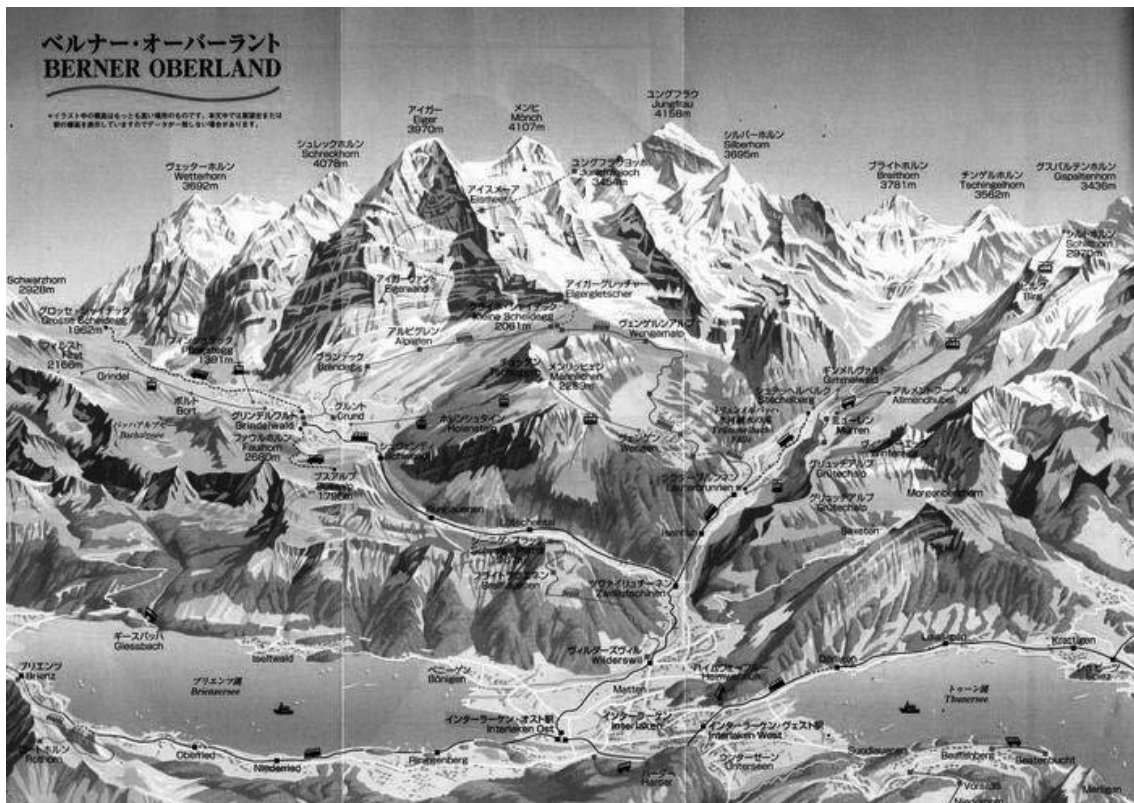


図-3 ベルナーオーバーラントの鳥観図

3. 日々の出来事

夏のスイス・アルプスを堪能する行程だ。写真付きで紹介する。

(1) 7月22日：自宅 → 関空 → ヘルシンキ → チューリッヒ

関西国際空港から日本海，シベリア上空を飛び，森と湖の国フィンランドへ。

長い搭乗時間だが，これが一番速くヨーロッパへ行くルートだ。ロシアがウクライナ侵攻した今となつては，選択できないコースだ。コロナ・ウィルスもまだ出現しておらず，幸運に恵まれた。

ヘルシンキ空港着陸時，フィンランドの第2国歌といわれるフィンランディアが流れる。アテンダントお薦めのビールの影響もありか，感極まる。**Herää Suomi!**（目覚めよフィンランド）を，原語で歌ったことがあるからだ。また，映画「ダイ・ハード 2」で，テロリストに占拠された空港が解放され，上空で待機していた旅客機が次々に降りてくる



写真-7 ヘルシンキ空港着陸直前の機内映像



写真-8 街並み

シーンに流れた曲でもある。その監督は，フィンランド人だとか。

ここで入国審査を受け，トランシット後，一路チューリッヒ空港へ。

バルト海が風車だらけなのに驚

く。

(2) 7月23日：チューリッヒ → ルツェルン → インターラーケン → グリンデルワルト



写真-9 屋根付き橋（カペル橋） 写真-10 塔にはツバメの巣 写真-11 河畔のマルシェで果物を調達

学生時代も、この橋を渡る。ただそれだけ。すぐ引き返し、ルツェルン駅からインターラーケン・オスト駅に向かった。どの列車に乗り込めばいいか、駅員に尋ねた後、指示されたホームに停車中の列車に乗り込もうとして、駅員に呼び止められた。それは別の方向へ行く列車であった。鄙びた、のんびりした町との印象。あの頃と比べると、車両も、駅舎も、素晴らしく近代化して、綺麗になっている。そして、観光客が多い。

トランクをコインロッカーに入れて、街を散策する。

カペル橋を渡り対岸の旧市街地を散策、湖から流れ出るロイス川の堰横にあるもうひとつの屋根付き橋（シュプロイヤー橋）を渡って、新市街に帰ってくる。あとは、湖と森と山を車窓に見ながら、インターラーケンへ。そして、登山鉄道でグリンデルワルトへ。

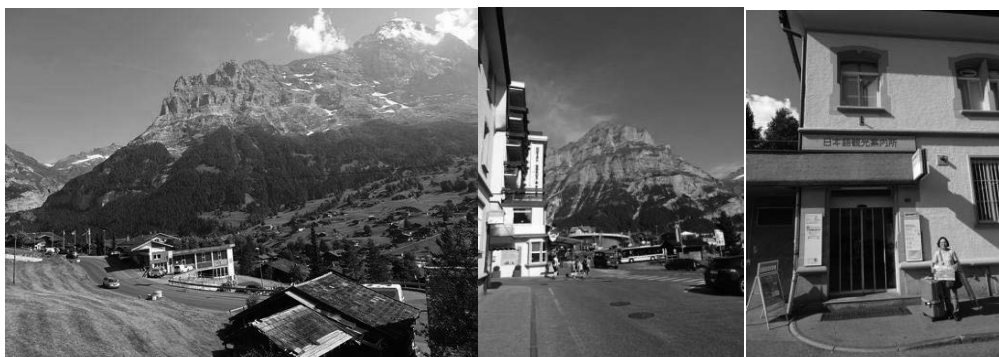


写真-12 グリンデルワルト 写真-13 メインストリート 写真-14 日本語観光案内所

まずは、駅前にある日本語観光案内所（郵便局の2階）へ。日本人スタッフが対応してくれるのが、有り難い。ここで、情報を仕入れる。野外劇は、どんな天候でもするのか？観劇後の深夜の交通の便は？食料品スーパーは？お薦め料理とレストランは？等々。

そして、ホテルにチェックイン。部屋からの眺めが素晴らしい！（写真-1）



写真-15 乾杯

(3) グリンデルワルトを起点にトレッキング等

- ① 7月24日：グリンデルワルト → クライネ・シャイデック → ユングフラウ・ヨッホ → アイガーグレッチャー → (徒歩) → クライネ・シャイデック → グリンデルワルト



写真-16 ヨーロッパの天辺

写真-17 メンヒ

写真-18 スフィンクス・テラス



写真-19 アイガーグレッチャー駅からクライネ・シャイデック駅までトレッキング



写真-20 有用な本

今回は、「世界自然遺産」の地であることから、捕虫網は持参しなかった。アサギマダラ類が好きそうな花もあったが、姿を見ることは叶わなかった。

その代わり、日本語観光案内所で入手した岡田季代子著「スイスアルプス 高山植物ポケットガイド」(Mengis Druck und Verlag AG)には、ずいぶん助けられた。写真付きで、科・属名から学名はもちろん、日本語植物名まで載っている。スイスアルプスには必携だ。

② 7月25日：グリンデルワルト → (バス) → メンリッヒェン展望台 → (徒歩) → クライネ・シャイデック → グリンデルワルト

ロープ・ウェイが工事中のため、メンリッヘンまではバスで行く。バスも時間どおり正確に運行される。スイス人の気質(?)で、気に入ったのは、時間に対する几帳面さ・律義さだ。日本人の感性に相通ずる。普段ならバスなど通らぬ、狭く曲がりくねった村道を、警笛を鳴らしながら登っていく。そのたびに、観光客から歓声が上がる。のんびりしていいもの也。

案内所でもらった「散策ガイド」も役に立つ。さすが、観光立国だ。



写真-21 散策ガイド



写真-22 指から離れないジャノメチョウ(?)



写真-23 部屋の枕元にかけられた写真（左からアイガー、メンヒ、ユウグフラウ）

毎朝，毎晩，この写真を見て過ごす。何という贅沢！メンリッヒェンから見た3山だ。手前のピラミッド様の山はチュッケン。そして，ベランダに出れば，目の前はアイガー！まさに天国にいる。

この写真が撮られた地へ。チュッケンの麓を巡って，クライネ・シャイデックまでトレッキングする。（写真-24, 25）



写真-24 メンリッヒェン山頂に至る道から



写真-25 山頂にて



写真-26 お供のイヌ



写真-27 メンリッヒェン駅



写真-28 散策道

驚くのは，どこに行ってもイヌに出会うこと。電車，バス，レストラン，デパート等々。そのうえ，行儀がイイ。どの犬もキチンと躰けられている。

散策道は「ベビーカー可」と本にある。しかし，実際に歩いてみると，ちと厳しい。

③ 7月26日：グリンデルワルト → ツヴァイリューチーネン → ラウターブルンネン
 （シュタウプバッハの滝）→ グリュッチアルプ → ミューレン → アルメントフーベル → （徒歩）→ ミューレン → グリュッチアルプ → ラウターブルンネン → グリンデルワルト



写真-29,30 シュタウプバッハの滝

写真-31 山の神に乾杯

写真-32 「花の道」を散策

滝（落差 287m）は、外からだけでなく、トンネルと梯子段を登り、裏からも観る。
 昼は、大体パン、リンゴ、バナナ、チーズとワイン。フランス産ワインが安価で旨い。

④ 7月27日：グリンデルワルト → インターラーケン（小動物園） → （遊覧船）→ ブリエンツ → インターラーケン（ハーダークーム展望台、ウィリアム・テル野外劇場）
 → （バス）→ グリンデルワルト



写真-33 アイベックス

写真-34 マーモット

写真-35 ブリエンツ湖遊覧

写真-36 展望台

遊覧船の出航時刻を待つ間、ハーダー展望台に登るケーブルカー駅隣りにあるミニ動物園に寄る。後日、トレッキング中に、野生のマーモット等に出会うことになるが、その予行観察会となる。何事も、好奇心が大事也。

ハーダー展望台（標高 1322m）からは、インターラーケン（標高 567m）の街が一望できる。晴れておれば、アイガーも見えるとか……。残念ながら、曇りで、風も強い。

しかし、これから行くウィリアム・テル野外劇場に目星をつけて、拡大写真も撮る。（写真-37）嬉しいことに、ズバリ当たっていることが、後で判明する。

このあと、夕立に会い、パラグライダーのメッカを体感すること叶わず。



写真-37 インターラーケンの街（○印が野外劇場） 写真-38 ウィリアム・テル野外劇場



写真-39 パンフレット

写真-40 配役（抜粋）

写真-41 テルと一緒に

劇場フロントには、一番乗り。開場前に、「パンフレットはいかが？」と小学生らしき売り子がやってくる。見れば、裸足だ。そして、民族衣装。あとで気づいたが、配役として彼女も載っている・・・？（写真-40）右上の女の子だ。それを知っていたら、サインをもらったのに、とは後の祭り也。



写真-42 劇場内

写真-43 たくさんの出演者・動物たち

客席の上には、屋根がある。しかし、舞台は、まさに野外。能登演劇堂の比ではない。幸い、雨は上がる。一方、夏とはいえ、標高 570m の高地。そして、夕立の後だ。早々にレインコートを着込む。出演は、子供を含め総勢 180 名。プラス、イヌ、ヤギ、ヒツジ、

ウシ、ウマたちも。驚くことに、「写真撮影、録画もOK」とのアナウンスが流れる。
何ということ！どうなってるんだ、この町は！・・・ 感激ひとしおだ。



写真-44 幕間の休憩では、屋台も出る 写真-45 いよいよテルが弓を射る時が



写真-46 アッという間に矢が刺さる

写真-47 矢が放たれる

この物語の顛末は、ご存知のとおり。

大規模なステージと演出、多数の出演者の熱演から、スイス国民の「愛国心」がヒシヒシと伝わる。涙と拍手、拍手であった。

台詞は、ドイツ語だが、単純なストーリー故、理解できる。機会を作って、この夏季の一大イベントをぜひ体感していただきたい。

実は、グリンデルワルトまでの帰り（登り）の交通の便を心配していた。終演時には、登山電車は運行していない。最悪、タクシーも考えた。さすがに、観光立国、日付をまたいだ深夜バスの運行がある。有り難いことだ。

⑤ 7月28日：グリンデルワルト →（バス）→ グレッチャーシルフト →（バス）→ グリンデルワルト

朝から雨。予定していたヴェンゲンからメンリッヒェンへの行程を変更。氷河が溶けて流れる溪谷観光にする。当然、レインコートに身を包む。晴天でも、雨天でも、観光できる場所があるのは、素晴らしい。散策後のホットミルクの美味しかったこと。

夕刻には、冷えた体に有り難い、地元民お薦めの店でチーズフォンデュをいただく。



写真-48 バスの中
雨の日は犬も大変

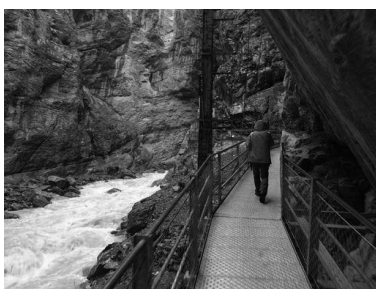


写真-49 溪谷沿いを散策

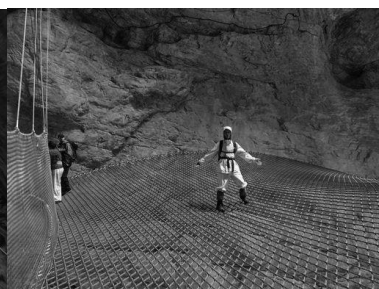
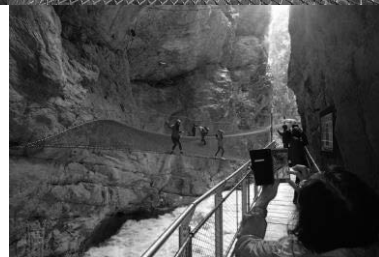


写真-50,51 谷上に張られた
ネット（遊び心満載）



⑥ 7月29日：グリンデルワルト → フィルスト展望台 →（徒歩）→ バッハアルプ湖 →（徒歩）→ フィルスト展望台 → グリンデルワルト



写真-52 フィルストは霧の中

写真-53 氷河に触れる

霧の中の散策。それでも、湖に着いた時には、一時晴れる。

この湖で、魚釣りをしている親子がいる。漁業権はどうなっているのだろうか？

帰り道、地元の中学生集団と一緒にいる。「神風」の字を染め抜いた鉢巻をした子から、その意味を訊かれる。「元寇」のことを話す。地面に、木の枝で年代を記し、1274 年文永・1281 年弘安の役の話だ。付き添いの先生も興味津々に聴いている。うかつなことは、しゃべれない。中華（モンゴル）帝国の 2 度の侵攻も、大嵐によって阻止された。だから、それを日本人は「神風（God Wind）」と呼んでいる（正式は、a divine wind）。「事が起こっても、神が守ってくれる」の意。



写真-54 一時晴れたバッ
ハアルプ湖

⑦ 7月30日：グリンデルワルト → ヴィルダースヴィル駅 → シーニゲ・プラッテ展望台（散策・高山植物園）→ ヴィルダースヴィル駅 → ラウターブルンネン駅 → ウェンゲン →（ロープウェイ）→ メンリッヒェン →（バス）→ グリンデルワルト

絶好の山歩き日和。インターラーケンやトゥーン湖，ブリエンツ湖を見下ろすシーニゲ・プラッテに行く。実は，ここからフィルストまで縦走できることを，後日，知る。



写真-55 可愛い赤い鉄道，背後がトゥーン湖

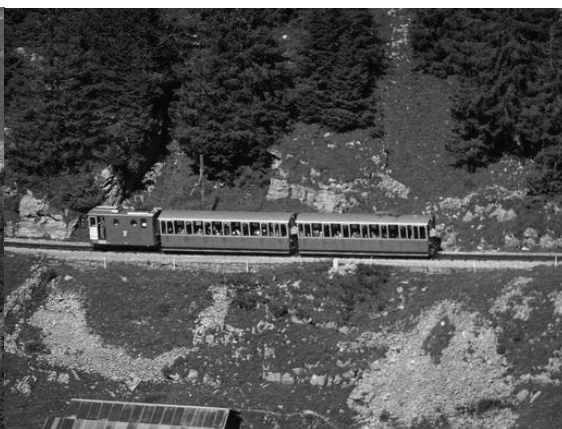


写真-56 この電車*に乗って



写真-57 山歩き



写真-58 梯子様の階段



写真-59 あの3山も！

黒い三角山チュッケンの手前，メンリッヒェンには，この日の午後，ヴェンゲンから登る

⑧ 7月31日：グリンデルワルト → (バス) → グローセ・シャイデック展望台（標高1962m） → (徒歩) → フィルスト展望台（標高2166m） → グリンデルワルト

グリンデルワルトの朝は，雲か霧かが多い。霧雨のなか，グローセ峠に向かう。途中，アルプスカモシカを見る。峠は，本格的な雨。レインコートの重装備にして，いざ出発。



写真-60 グリンデルワルトの朝



写真-61 バスターミナル



写真-62 アルプスカモシカ

* シーニゲ・プラッテ鉄道：1914年電化。一方，蒸気機関車の特別運行もある。



写真-63 シラタマソウ (?)
Silene vulgaris



写真-64 牛の後を



写真-65 花畑の間を歩く



写真-66 カエル
短い夏の後を、どう
過ごすのだろうか？



写真-67 マーモットの棲み処

自然いっぱいの山歩き。雨の日も、楽しい。
放牧された牛の後を追ひ、歩く。
なだらかな山腹に、ピーッピーッと声が響く。しかし、姿は見えない。地元ハイカーに尋ねると、マーモット！ その木像も置かれている。（写真-67）

そして、部屋に帰ると、「建国記念日」前夜祭の案内状が。8月1日がメインと思っていたが、当日は、静かに過ごす日。お祭り騒ぎは、前夜らしい。アルコールも時間限定で、無料提供されるとか。行かぬ手はない。



写真-68 前夜祭始まる



写真-69 興に乗るとテーブルに乗って

夕刻に始まった前夜祭。幕開けは、地元首長のあいさつから。「ようこそ」と日本語も交えてだ。年は、2019年。香港人にも、台湾人にも向けた挨拶がある。それに応えて、会場から「We are Hong Konger!」「We are Taiwanese!」と歓声が上がる。今となっては、隔世の感がある。あの時の旅人たちは、今も元気で、幸せに暮らしているだろうか。

地元スイス人家族のテーブルに入れていただき、この祭りの熱気に浸る。

ウィリアム・テルに代表される、ハプスブルグ家支配に対する抵抗と神聖ローマ帝国からの独立。ナチスドイツの侵攻が迫った時、「サンゴッタルド・トンネル、シンプロン・トンネル等を自ら爆破しても、侵攻を阻止する」と宣言。敢然と「独立堅持」を表明し、成し遂げた。スイス人の強い愛国心を感じる。その再確認が、この建国記念日だ。



写真-70 花火 1

写真-71 花火 2

深更は、花火で締め。しかし、日本の群発花火のような派手さはない。

また、翌夕も、ベランダに出ると、丘陵地にポツンポツンと建つ家ごとで打ち上げ花火をあげている。単発ゆえ、「祝花火」にしては、ちょっと寂しい。

◎ 8月1日：グリンデルワルト → フィンシュテック展望台（標高 1391m） → グリンデルワルト



写真-72 グリンデルワルト

写真-73 レストハウス

写真-74 ハイカーたち

グリンデルワルト起点の散策、最後の日。アイガーとヴェッターホルンの間にある、村を見下ろす展望台へ行く。静かな建国記念日だ。午後は、土産物店を回る。

(4) 8月2日：グリンデルワルト → インターラーケン → ベルン → チューリッヒ



写真-75 雲がたなびく朝

写真-76 雨のグリンデルワルト駅

グリンデルワルトを離れる日。電車に乗る時刻には、雨になる。

雲なびき 泣いてくれるか
山の村

途中、首都ベルンに寄る。
そこで大きな忘れ物を思い出
す。「建国記念日には、きっ

とベルンへ来るように」と学生時代に泊まったユースホステルで言われたことだ。次回の課題となる。

(5) 8月3日：チューリッヒ市街観光（美術館，チューリッヒ湖）

8月4，5日：チューリッヒ → ヘルシンキ → 関空 → 自宅

4. 感想と課題

2019年，日本では盛夏の10日余りをスイス・アルプスで過ごした。これは，わが人生でも大きな出来事だ。そして，相棒とともに山歩きに専念できたことが，何より嬉しい。実際に，かの地に立ってみて気づいたこともある。

- ① 犬の「躰」が素晴らしいこと → 日本の愛犬家が見習いたいこと
- ② ネコを2回（匹）しか見なかったこと → 深窓の令嬢ならぬ，「令猫」らしい。
- ③ ベルナーオーバーラント自体が，大きなアミューズメントパークであること
- ④ 川は滝のごとく流れる（急流）が，融氷河の流れのため，日本の川の形態とは異なること → 近自然河川工法の施工ポイントは，こんなところにありそう
- ⑤ 別荘（シャレー）泊 → 料理作りを考えると，ホテル泊は，やはり有力な選択肢
- ⑥ 学生時代に泊まったグリンデルワルトのユースホステル
→ 現状を見たいと思っていたが・・・現地では，全く忘れていた。残った課題。
- ⑦ 首都ベルンで，建国記念日を迎えること

帰国後，SNS「週刊スイス情報」が届くようになる。かの国も様々な問題を抱え，それに対処していることを知る。

そして，今回歩いていないルート，訪ねていない場所もある。

ぜひ元気なうちに，再び訪れたいものだ。

以上



【参考資料】

- ① 図-1, 2, 3 : 「地球の歩き方」から抜粋
- ② 写真：天野撮影

写真-77 アルベルト・ジャコメッティの作品
(チューリッヒ美術館)